

## 6-1 アンケート調査の結果

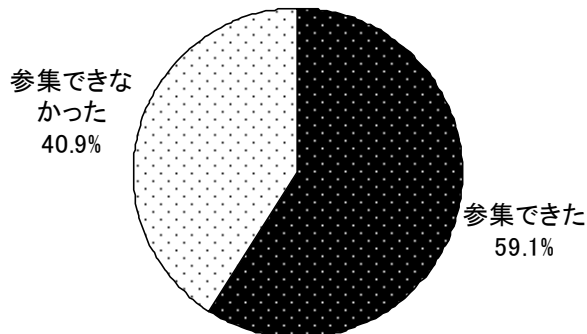
## 6-1. アンケート調査の概要

### 1 調査対象者及び回答者数等について

- (1) 調査対象 愛知県内の消防団に所属する全消防団員
- (2) 調査時期 平成 24 年 6 月 15 日～7 月 10 日
- (3) 回答者数 15,562 人 (対象者数 23,608 人、回答率 65.9%)

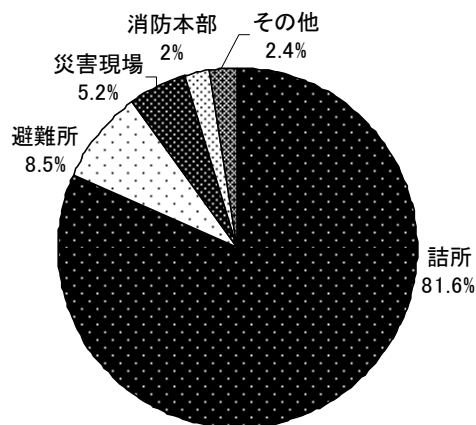
### 2 調査結果

- (1) この設問については、東日本大震災と同規模の地震が同日同時(平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分)に東海地方を襲ったと仮定し回答してください。そのとき、あなたは所定の参集場所に参集しようとするれば参集することができましたか。(公共交通機関は利用できない。道路は通常通りとして考えてください。)



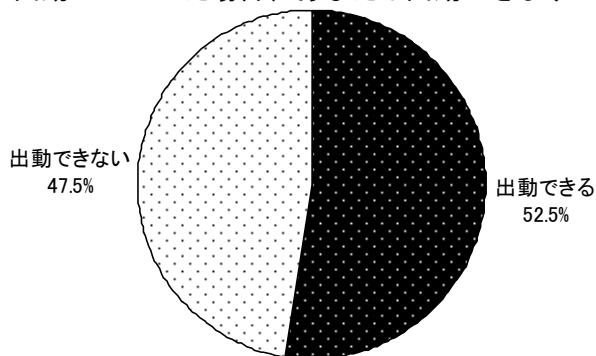
参集できたと回答した団員が約6割いた。災害に対応する意識の高さがうかがえる。しかし、発災した場合は、家族等の安否確認や交通網の遮断等で実際に参集可能な人員は回答結果よりもかなり低いと推測される。

- (2) あなたが大規模災害時に参集する場所はどこですか。

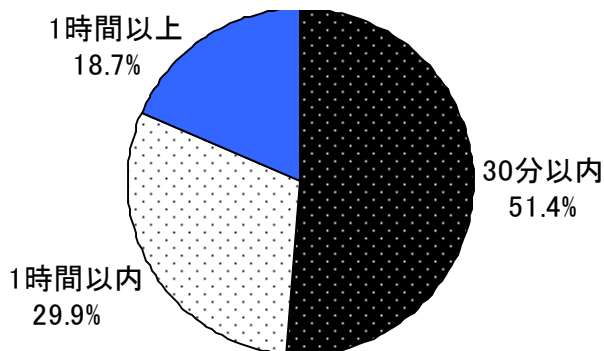


消防団詰所が圧倒的に多いが南海トラフ大地震の想定が見直され津波被害想定区域内にあるところは、災害種別によっては、参集場所の再検討を行うことも必要である。また、避難所を参集場所として回答している団員も1割いた。各市町村と災害時の役割分担を再確認して、初動活動の遅れがないようにするべきである。

(3) 平日昼間帯に出動がかかった場合、あなたは出動できますか。

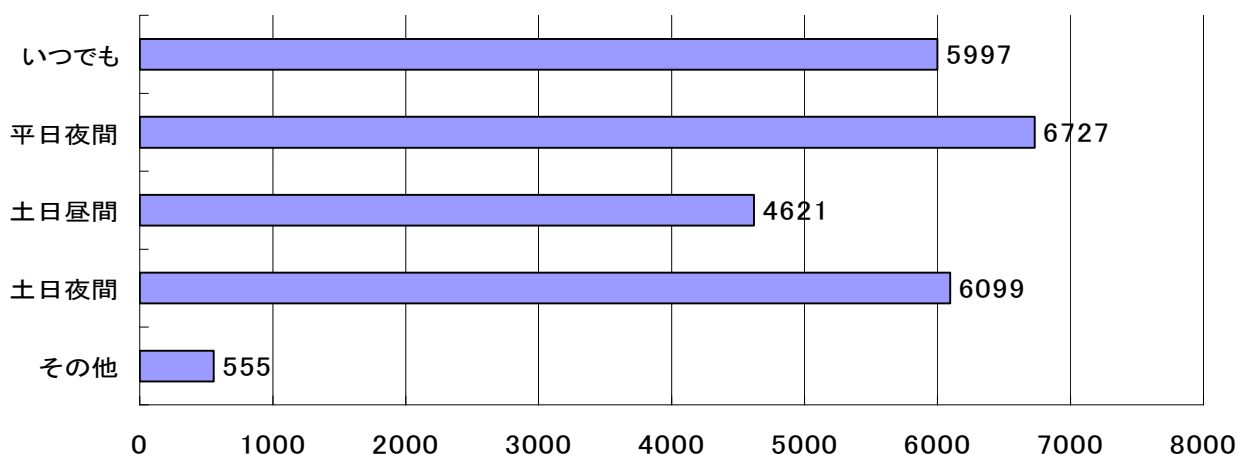


ア (3)で「出動できる」と回答した方にお尋ねします。出動までにどの程度の時間が必要ですか。



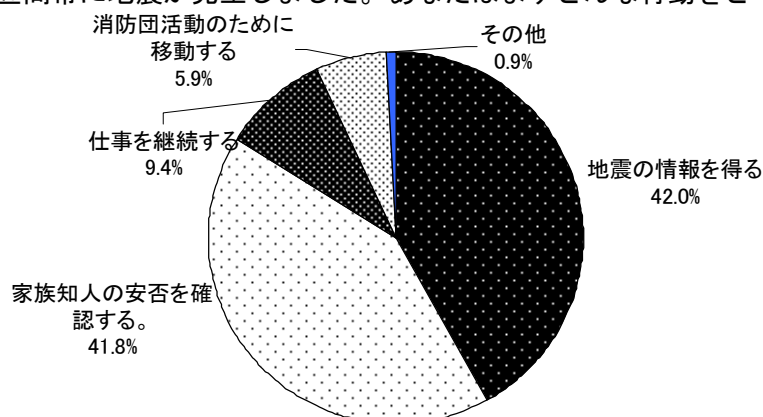
平日昼間帯に出動できる団員は約半数で、そのうち30分以内で出動できると回答した団員はその半数であった。交通網の遮断等の事情を考慮する必要があり、初動時は数少ない限られた人員での活動を強いられることとなる。

(4) 平日昼間帯以外であなたは、いつ集まりますか。



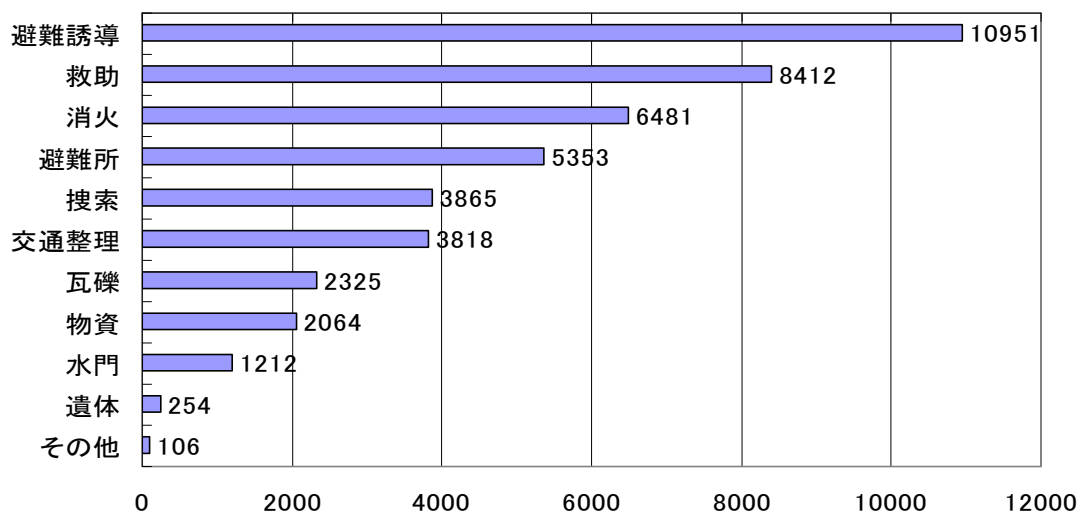
土日についても、昼間帯の活動人員の確保が難しいことがわかる。そのため大規模災害時の活動に特化するなどした機能別団員の確保に努めていくことも必要である。

(5) 平日昼間帯に地震が発生しました。あなたはまずどんな行動をとりますか。



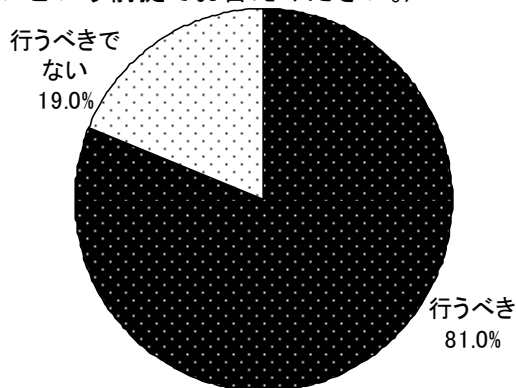
家族、知人等の安否確認をすると回答した団員が4割を超えた。また、携帯電話で安否確認をする場合通信不通などにより相当時間がかかることも考えられ、即消防団活動に従事できる団員は少ないと考えられる。初動活動の遅れも予想される。

(6) 三連動地震（東海、東南海、南海地震）等の大規模災害直後にあなたがイメージする消防団活動とは何ですか。（優先順位が高いと思うもの3つを選択してください。）



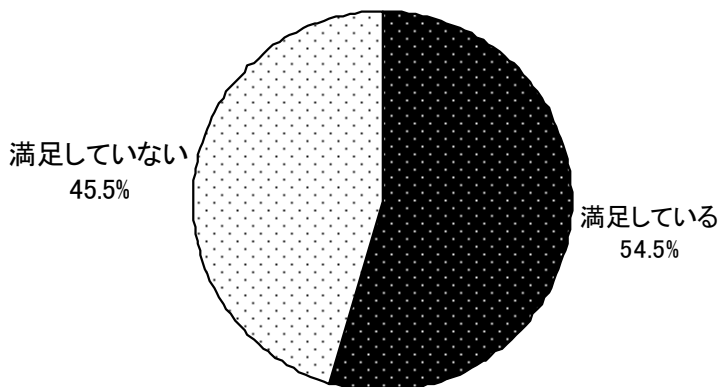
地域の住民は、災害発生時に消防団員に対して、避難誘導や救助など人命に直結する重要な活動を期待していることがわかる。一方で地域住民へ日頃からの防災意識の向上に努めてもらい、住民の協力と理解が災害時の消防団活動を効率的にすることを理解してもらうことも重要である。

(7) 東日本大震災では、消防団員が自分の管内以外の地域へ応援出動したケースがありました。あなたは他の地域での消防団活動を行うべきと考えますか。(あなたの地域には大きな被害はないという前提でお答えください。)

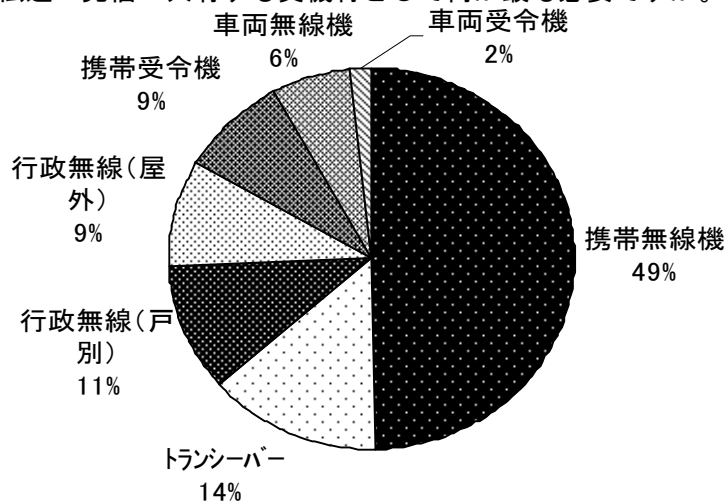


行うべきと8割以上の団員が回答している。これは同じ志を持つ団員の東日本大震災の際の様々な活動への称賛であろうし、共助、公助の精神を併せ持つ消防団の熱い気持ちと受け取ることができる。

(8) 現状の保有する資機材で、情報を伝達・発信・共有する手段として満足していますか。

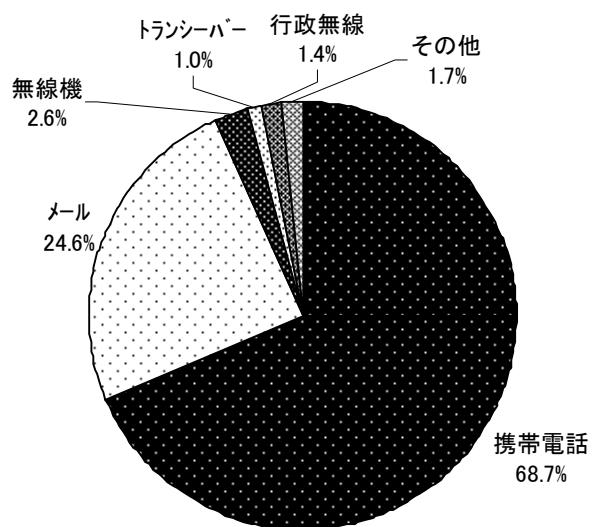


ア 情報を伝達・発信・共有する資機材として何が最も必要ですか。



情報伝達資機材では、携帯無線機の要望が圧倒的で、次いでトランシーバーとなっている。このことから、双方向の情報伝達資機材の配備を要望していることが分かる。

(9) 地震発生直後、あなたはどのような手段で消防団員同士の連絡をとりますか。



現場、消防団員同士の連絡手段として携帯電話が約7割を占めているが、大規模災害時は一斉に通信制限がかかり、携帯電話では連絡が取りにくくなるため、情報共有が難しい。消防団員、最低団幹部には災害時優先電話への加入体制を整備していくべきである。

## 6-2 アンケート結果集計表

## 6-2. アンケート結果集計表

### 【基礎設問】

1.あなたの年齢	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60歳以上
	187	3,651	5,592	2,755	1,855	1,515
2.消防団員としての経験年数	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～25年未満	25年以上
	6,143	4,233	2,234	1,147	758	1,057
3.あなたが消防団に入団したきっかけは？	1 本人意思	2 友人のすすめ	3 家族のすすめ	4 団員の勧誘	5 地区の勧誘	6 勤務事業所
	1,307	2,821	595	7,533	2,122	263
	7 広報誌等	8 地域慣習	9 その他			
	53	684	150			
4.入団してどのような感想をお持ちですか。	1 やりがい	2 知り合いの増加	3 知識技術	4 新たな体験	5 訓練が辛い	6 週末行事が大変
	4,536	11,632	8,321	7,945	2,273	5,315
	7 休まらない	8 その他				
	1,180	296				

### 【消防団活動】

5.参集	1 参集できた	2 参集できなかった				
	9,121	6,318	←大半が仕事のため。			
6.大規模災害時の参集場所	1 災害現場	2 詰所	3 消防本部	4 避難所	5 その他	
	788	12,355	359	1,280	365	
7-1 平日昼間帯、出動できる。	1 できる	ア 30分以内	イ 1時間以内	ウ 1時間以上		
	6,992	3,642	2,119	1,329		
7-2 平日昼間帯、出動できない。	2 できない	ア 遠隔地	イ 仕事多忙	ウ 上司の理解	エ 欠勤扱い	オ その他
	6,323	2,393	2,312	925	533	203
8.平日昼間帯以外の参集	1 いつでも	2 平日夜間	3 土日昼間	4 土日夜間	5 その他	
	5,997	6,727	4,621	6,099	555	
9.平日昼間帯に地震が発生、まずどんな行動をとりますか。	1 仕事継続	2 情報収集	3 安否確認	4 団活動	5 その他	
	1,450	6,520	6,480	918	139	
10.大規模災害直後にイメージする消防団活動	1 避難誘導・広報	2 水門閉鎖	3 捜索	4 救助	5 瓦礫撤去	6 避難所支援
	10,951	1,212	3,865	8,414	2,325	5,353
	7 物資搬送	8 遺体搬送	9 消火	10 交通整理	11 その他	
	2,064	254	6,481	3,818	106	
11.近いうちに大規模災害が発生すると思いますか。	1 思う	2 思わない				
	12,749	2,714				

### 【教育】

12.団教育について、満足していますか。	1 満足している	2 満足していない				
	12,963	2,265				
13.過去1年間に何回出動しましたか。	ア 火災	イ 行方不明	ウ 風水害	エ 訓練指導	オ 機械器具	カ 自主防
	14,641	1,128	3,837	70,884	37,370	7,446
	キ その他	合計回数				
	3,744	141,183				



## 6-2. アンケート結果集計表

### 【消防団員の確保・活用】

14.消防団員が減少している理由は何だと思えますか。	1 募集活動	2 住民理解	3 魅力低下	4 人口減少	5 帰属意識	6 サラリーマン増
	3,369	7,903	4,025	5,357	5,979	6,813
	7 土日活動負担	8 処遇が悪い	9 その他			
	5,847	3,323	444			
15.消防団員の確保は、どうすれば改善されますか。	1 PR	2 装備充実	3 メリットの構築	4 入団要件見直し	5 再入団促進	6 負担軽減
	5,844	1,406	9,133	4,528	2,736	7,736
	7 処遇改善	8 その他				
	7,584	583				
16.勧誘したことがありますか。	1 ある	2 ない				
	8,712	6,813				
17.勧誘したのは誰ですか。	1 家族	2 友人	3 職場の同僚	4 その他		
	272	4,995	718	2,380		
18.消防団員による勧誘は難しいですか。	1 難しい	2 難しくない				
	11,316	3,228				
19.処遇について、どう感じていますか。	1 十分	2 どちらかと言えば十分	3 どちらかと言えば十分でない	4 十分ではない		
	2,225	4,017	4,886	3,984		
20.あなたは今後も団員を続けていきますか。	1 当分続けたい	2 辞めたい	3 分からない			
	7,675	3,341	4,235			

### 【各市町村間における協力体制の整備】

21.他の地域での消防団活動について	1 行うべき	2 行うべきでない
	12,355	2,893

### 【情報伝達・発信・共有】

22.情報を伝達、発信、共有する手段は満足していますか。	1 満足している	何が必要か。				
	7,816	ア 携帯無線機	イ 車両無線機	ウ 車両受令機	エ 携帯受令機	
		3,526	452	117	610	
2 満足していない	6,525	オ 行政無線(屋外)	カ 行政無線(戸別)	キ トランシーバー		
		626	781	968		
23.発災直後、消防団員同士の連絡	1 携帯電話	2 メール	3 無線機	4 行政無線	5 トランシーバー	6 その他
	10,533	3,773	402	157	217	260

## アンケート自由意見

### 大規模災害時にどのように動いていいのかわからない

- ① 各地域にあった細かな活動に変えていくべきである。
- ② 各地域によって想定される活動が異なり、自分たちが何をするのか明確になっていない。
- ③ どこまで動けるか不安に思う。
- ④ 経験の少ない消防団員も活動に戸惑わないようなマニュアルの作成が必要ではないか。

### 情報伝達手段が不足している

- ① 団員間の情報伝達資機材を充実させるべきではないか。
- ② メールやフェイスブックを有効に活用してはどうか。
- ③ 携帯無線機の配備が必要である。
- ④ 消防団員の家庭に受令機を置くことでスムーズな出動に繋がるのではないか。

### 資機材が不足している

- ① 各地域によって必要な資機材は違う。
- ② 大規模災害時に適した資機材を充実させるべきではないか。
- ③ 老朽化しているが更新が遅れている。

### 訓練・教育を考える

- ① 訓練・教育はより実践的にすべきではないか。
- ② 消防署や他の消防団と合同での訓練を実施すべきではないか。
- ③ 実践的なポンプ操法に見直すべきではないか。(誰もがポンプや筒先を使えるよう)
- ④ 各地域で想定される活動は違うので各地域に見合った訓練が必要ではないか。
- ⑤ 服務指導と安全管理の両面から教育が必要ではないか。

## 各市町村間の協力体制の整備

- ① 他の地域の被害が大きく、応援可能であれば出動すべきではないか。
- ② 広域活動に向けて、他の地域の消防団とも連携が必要と思う。

## 消防団員確保

- ① 団員の高齢化 ～若者が入団しやすい環境づくり対策が必要～
- ② 入団に伴うメリットの構築 ～魅力ある消防団に～  
(例えば、就職時に有利になる。資格取得できる。保険料や市民税等を安くする。コンビニや商店街での割り引き。トレーニング施設の無料開放。若手に人気のスポットで受けられるサービスなど。)

## その他

- ・会社や地域に正しく認識されておらず地域の理解が得られていない。消防団の活動をPRして必要性を認識していただくことが必要ではないか。
- ・写真を多く掲載した広報誌や活動便り等発行して地域に回覧する。
- ・東日本大震災の消防団の活躍をPRして団員増加に繋げたい。
- ・ボランティア意識が高まる中で、ひとつの選択肢として消防団をアピールしてはどうか。
- ・団員募集などの普及活動などのアイデアコンテストなどを実施してはどうか。
- ・専門分野が様々なので消防団員の専門知識・技術を活かせる活動も検討すべきではないか。
- ・家族がみんなで参加でき、地域が一緒に取り組める催しを開催してはどうか。
- ・消防団は、薄れていく地域交流の橋渡し役を担う必要があるのではないか。
- ・処遇改善よりは消防団の社会的地位や名誉の向上が必要ではないか。
- ・イベントなどの情報をインターネットや新聞等を活用して広報していくべきではないか。